



さいたま水上公園に想う

今年度をもって閉園するさいたま水上公園プールの「ありがとうイベント」が昨年12月12日に開催され、私も足を運びました。

さいたま水上公園は、昭和46年の「埼玉県100周年記念事業」の一環として「海なし県に『海』を」をキャッチフレーズに、流れるプールやスライダー、波のプールなど7つのプールが大変な人気を博し、市内はもちろん県内外から多く皆様が来場されました。

平成13年までは「流れるプール」をスケートリンクとして冬場も営業し、夏冬通してにぎわい、最盛期には年間入場者は100万人を超えていたそうです。私も子どもたちを連れて幾度となく訪れ、たくさんの思い出があります。

イベント当日は、年代を問わず多くの皆様が訪れて、プールやスケートだけでなく「おもしろ自転車」で周回したことや、魚釣りで終日楽しんだなど、たくさんのお話を伺うことができました。波のプールには、思い出の詰まったメッセージがすき間なく書き込まれ、半世紀にわたっていかに愛された施設であったかが十分に伝わってきました。

跡地は、埼玉県が整備を予定している「スポーツ科学拠点施設」の候補地として、現在基本計画の策定が進められています。

上尾市としても、新たに生まれ変わるこの場所が、アスリートだけでなく、多くの市民・県民の皆さまの憩いの場、にぎわいの場として愛されるよう、引き続き、県と協議を重ねてまいります。



昭和46年オープン当時のにぎわい

市長 畠山 稔